

在宅医療の現場における総合教育

在宅医療の現場における新卒を含めた臨床検査技師の教育について

◎岡田 章佑¹⁾、相原 千春¹⁾、國岡 香音¹⁾、杉田 絵里¹⁾、田中 彩衣¹⁾
大江戸江東クリニック¹⁾

在宅医療の必要性が高まる昨今において、医療介入度の上昇が求められている。在宅医療の現場では医療レベル向上のため、臨床検査技師の果たす役割は年々大きくなっているのではないだろうか。当院は開院後まだ間もない在宅医療クリニックではあるが、2拠点を有し、多くの重症患者の診察に取り組んでいる。2024年3月時点では670名の患者への在宅医療を提供しており、2022年7月から2023年6月の1年間で189名の在宅看取りを行っている。当院では、訪問診療・往診を行う際の同行助手として、臨床検査技師、救急救命士、放射線技師が活躍している。臨床検査技師としては現在5名が在籍しており、2024年4月からは8名体制となる。その内4名が新卒であり、入職とともに総合的な教育が必要となっている。当院が新人教育を行う上で重きをおいている点は、患者の病態理解と社会背景への理解である。在宅医療では社会的資源も含めた限られたリソースでの最大限の効果が期待されるため、これらの背景因子への理解があつてこそ検査の意義が増すと考えている。そのため、当院では様々な教育プログラムを用意しており、個々のレベルに合わせて成長していけるように手配している。具体的には、医学的知識の拡充のための座学、症例検討会、他事業所との合同勉強会、超音波検査などの技術習得のための講義、ビジネススキル講習、血液生化学検査の臨床的判断の学習など多岐にわたる。在宅医療の現場に、より多くの臨床検査技師を誘致するためには、安心して成長できる環境を構築すること、在宅医療で実施可能な検査を増やしていくこと、高度な医療介入が必要な症例が一定数いることなどが必要と考えている。臨床検査技師が在宅医療の場で活躍していくためには、受け入れ側の体制構築が非常に重要である。実際に当院が行っている取り組みなどを報告し、臨床検査技師の活躍する場が拡張していくことへの一助となれば幸甚である。

連絡先ー090-6208-2253